

■中川五郎治 医者。ロシアに拿捕され、交換釈放途中、種痘法を知ってマスター、日本初の種痘実施、以後度々。
なかがわごろうじ
久留米藩工事1768＝ 下北川内村で、越前三国港から移住し代々ヒバ材を扱う船問屋小針屋分家の佐助の子に生まれる。

田沼意次老中1772＝ 4歳：

・・・・・・・・ 1777＝ 9歳：

田沼意次失脚1786＝18歳：

ヲクサン来日・ 1792＝24歳：この頃、_蝦夷地に渡り、
松平定信引退1793＝25歳：_松前で木材業を営む一方、場所請負人栖原屋庄兵衛に奉公するうち、
写楽・・・・ 1795＝27歳：

蝦夷地直轄始1799＝31歳：_幕府が東蝦夷地を直轄とし、場所請負制度を改革して、直営のエトロフ場所を開くと、栖原屋から周旋されて、さらなる稼ぎを求めて、エトロフに渡る。

_現地には下北出身者がかなりおり、幼時から寺子屋に通って読み書きができた上、計数にも明るかったことから、番人小頭に昇格して活躍していたが、
レザノフ来航・ 1804＝36歳：この年、レザノフが来日して国交を求めると断られたことから、ロシアによる暴力行為が始まり、

ワッ船狼藉・ 1807＝39歳：_ロシア軍艦が現れ、番屋倉庫は焼き払われ、南部・津軽藩兵も総崩れとなって、ロシア兵に拿捕され、烏沢の佐兵衛とともに二人だけは釈放されずに、オホーツク港に連行される。ロシア・アメリカ商会のもと、生かさず殺さずの待遇を受けて、雑役を何でもこなすうち、倉庫番人を手なづけて、日本の地図と「節用集」を持ち出させると、日本に不利になると、地図は焼却、「節用集」のうち、朝廷・幕府・大名の部分を破り捨てるなどの愛国心を発揮するとともに、中川良左衛門と名乗る。

浮世風呂・・・・ 1809＝41歳：_脱走するが、まもなく捕まる。
・・・・・・ 1810＝42歳：スキーを履くなど用意万端で、再び脱走するが、海が氷結し、鯨の腐肉を食べたことから佐兵衛が死去、
ゴローン拿捕 1811＝43歳：この年、*日本に捕らえられたロシア軍艦ディアナ号艦長ゴローニンらを救出するための交換捕虜として、シベリア総督府のあるイルクーツクに召喚され、戻る途中のヤクーツク付近の商家で種痘法を著した本を発見すると、実際に医師について歩き、マスターしてしまう。

高田屋拿捕・ 1812＝44歳：_リコルド副艦長率いるディアナ号で、漂流民らとクナシリに到着すると、知恵を発揮して日本人全員を引連れて上陸するも、幕府役人に拘束され、厳しい取調べを受けるが、「五郎治申上荒増拓」を提出して、松前奉行所の小使いに雇われ、両親を呼寄せて孝養を尽くし、
浮世床・・・・ 1813＝45歳：_「異境雑話」を著し、
水野忠成老中1818＝50歳：_手代に昇格、松前藩士となって、正式に中川姓を名乗る。
膝栗毛終・・・・ 1822＝54歳：

シボト嶋鳴滝塾1824＝56歳：*蝦夷地に天然痘が大流行した際、商人の娘に種痘を実施、日本初の種痘となる。

この間、ロシアから持ち帰った種痘法の本は馬場佐十郎が翻訳して「遁花秘訣」と題されたが出版されず、

富嶽三十六景1831＝63歳：

滑稽+人情本 1835＝67歳：この年、_再び天然痘が流行した際にも種痘を実施、

大塩平八郎乱1837＝69歳：

勸進帳初演・ 1840＝72歳：

天保改革弾圧1842＝74歳：_また、天然痘が流行した際にも種痘を実施して、多くの命を救い、

阿部正弘首座1845＝77歳：_種痘法は、弟子の白鳥雄蔵によって秋田にも広められる。

・・・・・・・・ 1848＝80歳：_川に足を滑らせ溺死した。
その後、種痘の技術は函館の医師高木啓蔵などにより、京都に伝達され、さらに福井では笠原良策によって実践される。

「人づくり風土記(青森)」、